

『極真への道を読んで』

山本 直緒

私が極真への道を読んで思ったことは、まず親の大切さです。この本を読んでいると大山総裁がどれほど親を大切にしていたかがわかりました。

私はこの本に書いてあるように、親に対して「死ね。」などと言うのはいけないと思います。本にも書いてありますが、今まで育ててくれた人に言うなんてそんな悲しいことはないと思います。もし、自分の友人がそんなことを言っていたらすごく失望してしまいます。私は、この世にたった二人しかいない両親だから、大事にすべきだと思います。

もう一つは、第4章の『極真空手は極楽空手』というところ です。怖いのはお互いさまで、自分だけが怖いのではない。私はそのとおりだなと思いました。実際、試合のとき私は毎回のよう にガチガチにかたまってしまいます。その理由は、負けたらどうしようという気持ちや怖いと思っ ているからです。そのたびに父に「相手も一緒」と言われます。私はそれを聞いて少し安心 します。私だけが怖いんじゃないと思うと前に進むことができます。『一歩進めばあ とは極楽』と本に書いてあるとおり、自分から一歩進めば怖いという気持ちはなくな ります。本に書いているように、勇気を持って挑戦して、その結果から自信と勇気 を技術化し、一歩近づきまた一歩と近づくために練習していきたいです。

最後の一つは、第8章の『ライバルがあつてこそ』です。『本来、武術は勝つた ための術なので、ライバルがあつたほうがいい。』と書いてあります。私にはライバ ルがいます。それは普段よく一緒に稽古していたり、よく試合であたりたりする人 です。そのライバルとは、友人でもあります。空手のときはライバルに変わります。 自分は負けず嫌いなので、絶対負けたくないと思って稽古をします。それでも負 けてしまうことはあります。でも、負けることも大切だと思います。その負けた理 由を考えてまた稽古に励むからです。そういうことをお互いにして、成長していける のが、私のライバルだと思っています。

私はこの本を読んで、たくさん気づかされたことがありました。そして、考え直したところもあるし、読ん でよかったなと思いました。わからないところも、まだ理解できなかったところもあるけど、もう少し大人になっ たときにわかるのかなと思います。これからは『極真への道』を読んで学んだことを胸に抱い て、成長していきたいです。

『黒帯になれば』

山本 直緒

私は黒帯になれば、まず家族に感謝したいです。

小学1年生のときに空手を始めました。そのときからずっと、私が反抗しても、どんなに仕事で疲れていても、道場の送り迎えもしてくれ、稽古にもつきあってくれている父がいてくれているおかげで、9年間空手を続けていれています。いつも夜遅くになっても、ご飯を待っていてくれたり、試合でもいつも応援してくれる母がいるから頑張れています。どんなに喧嘩していても、どんなにいろいろなことを我慢させてしまっても、理解して応援してくれる姉がいるから、もっと頑張ろうと思えます。そんな私を全力で後押ししてくれる家族に感謝したいです。

次に、今まで私に稽古をつけてくれた師範や先生、先輩に感謝したいです。今まで頑張っ てこれたのは、家族のおかげもあるけど、一番は稽古をしてくれた先生のおかげだと思います。師範や先生は、厳しく優しく稽古をつけてくれていつも感謝しています。たまに稽古をさぼりたくなったりするけど、私はやっぱり空手が生活の一部になっていて、空手のない生活はありえないと思います。ここまで空手

を好きになったのは、師範や先生のおかげだと思います。

そして、私が黒帯になれば、今まで以上に稽古を真剣にしていきたいです。黒帯を締めるという自覚を持ち、後輩に恥ずかしくない稽古をしたいと思います。黒帯になれば、今までやってきたことをまた見直していきたいです。そして、今までできなかったこともしてみたいと思います。もう高校生にもなったので、もっと積極的に行事にも参加していきたいです。私は黒帯になっても、試合にはたくさん出たいと思います。それから、後輩に今まで自分が先輩に教えていただいたことを教えたいです。

はじめは頼りないかもしれないけど、師範や先生、先輩に信頼されるような黒帯になりたいです。そして、後輩にも恥ずかしくなくて、憧れになれるようになりたいと思います。

最後まで感謝の気持ちと初心を忘れずに、自分に負けないで、稽古や試合に出て、自分を鍛えていきたいと思います。